

次第

第50回 宇都宮市環境審議会

- 1 開会
- 2 諮問
- 3 議事
 - ・ 第4次宇都宮市環境基本計画の策定について
 - 資料1, 別冊
 - ・ 第2次うつのみや生きものつながりプランの策定について
 - 資料2
- 4 その他
- 5 閉会

令和7年6月2日(月) 午前10時00分～11時30分
宇都宮市役所14階 14大会議室
環境部 環境創造課, 環境保全課

宇都宮市環境審議会委員名簿

◎:会長 ●:副会長

氏名	役職等
石川 京樹	宇都宮市議会議員
手塚 泉	//
福田 智恵	//
成島 隆裕	//
森嶋 佳織	作新学院大学女子短期大学部 講師
◎横尾 昇剛	宇都宮大学 教授
北浦 さおり	宇都宮共和大学 准教授
加藤 彰	帝京大学理工学部 教授
高梨 弘幸	栃木県地球温暖化防止活動推進センター センター長
稲葉 全郎	宇都宮市医師会 理事

氏名	役職等
半田 光隆	宇都宮農業協同組合 代表理事専務
篠崎 務	宇都宮商工会議所 議員
小牧 裕昭	宇都宮青年会議所 副理事長
●増渕 弘子	うつのみや環境行動フォーラム 理事
小林 紀夫	宇都宮市青少年育成市民会議 副会長
小金澤 頼子	宇都宮市女性団体連絡協議会 副会長
大森 幹夫	宇都宮市自治会連合会 副会長
稲垣 広己	宇都宮地方气象台 次長
稲見 正雄	公募委員
西口 璃空	//

資料 1

第4次宇都宮市環境基本計画の 策定について

【趣旨】

環境基本条例に掲げる基本理念の具現化に向け、市民・事業者・行政が連携して環境都市の実現に向けた取組を推進するため、新たに、2030年度を目標年度とする「第4次宇都宮市環境基本計画」の策定に係る現行計画の進捗状況等について報告するもの

【目次】

- 1 第4次宇都宮市環境基本計画の策定
- 2 国における環境基本計画
- 3 栃木県における環境基本計画
- 4 計画策定の手順
- 5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況
- 6 策定スケジュール
（参考）アンケート調査の概要

1 第4次宇都宮市環境基本計画の策定

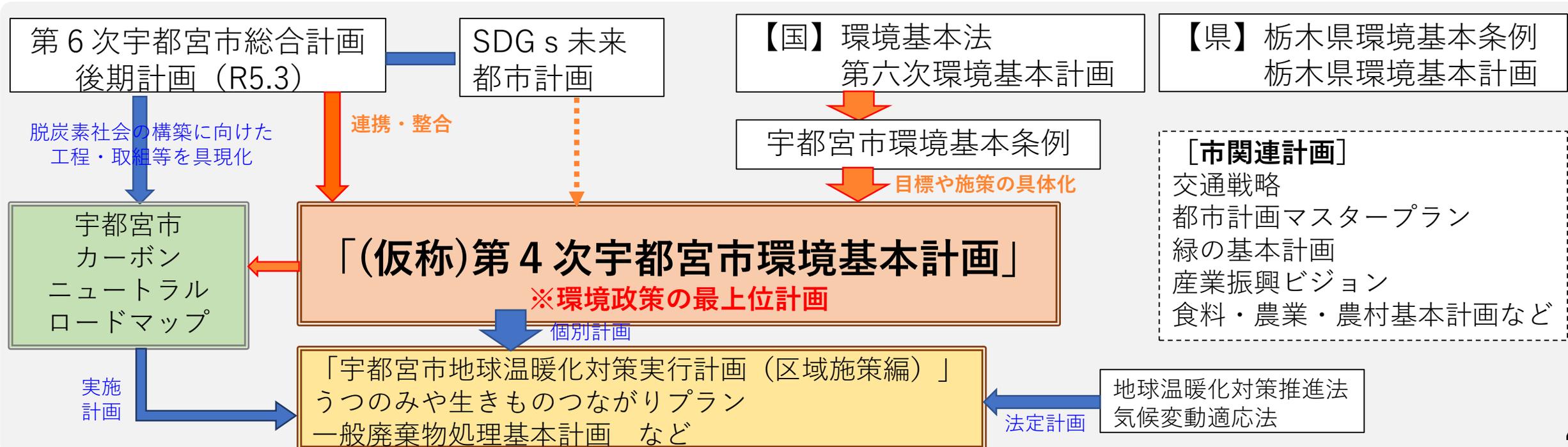
(1) 策定の目的

環境基本条例に掲げる基本理念の具現化に向け、第6次宇都宮市総合計画や市ロードマップ等との整合を図りながら、新たな環境問題や市民ニーズ等に的確に対応し、市民・事業者・行政が連携して持続可能な環境都市の実現に向けて取り組むことができるよう、新たに計画を策定するもの

(2) 計画期間

5年間 (2026(令和8)年度から2030(令和12)年度まで)

(3) 計画の位置づけ



1 第4次宇都宮市環境基本計画の策定

(4) 宇都宮市環境基本計画の経過

第1次

[計画期間]

平成15年度～平成22年度(8か年)

[計画の特色]

21世紀半ばを展望し、環境基本計画がめざす本市の環境将来像を「望ましい環境像」として示して取組を推進

基本理念

みんなで築き 未来へつなげよう
環境都市 うつのみや

第2次

[計画期間]

平成23年度～平成27年度(5か年)
※当初10カ年計画で策定

[計画の特色]

課題や目標、方針を各主体(市民, 事業者, 行政)が共有すること, それぞれの役割を把握できること, 行政の各分野に対する横断的な取組の推進

基本理念実現に向けての基本的な考え方

うつのみやから はじめよう
「環境の世紀」のまちづくり

第3次

[計画期間]

平成28年度～令和7年度(10か年)

[計画の特色]

基本理念に掲げている“環境都市”の姿を明確化するとともに, その実現に向けて優先的に取り組む施策・事業を重点戦略として設定し推進

21世紀半ばの環境未来都市の姿

みんなが「もったいない」のころを持って行動し, 自然の恵みとエコで便利なライフスタイルを満喫できるコンパクトシティ

第4次宇都宮市環境基本計画：次期計画を策定予定（令和7年度）令和8～12年度

1 第4次宇都宮市環境基本計画の策定

(5) 第3次宇都宮市環境基本計画の推進方針及び施策体系



◎基本理念に掲げている“環境都市”の姿を明確化するとともに、その実現に向け、「環境への負荷を低減する」を計画の目標として「ひと」、「まち」「しくみ」の視点から推進方針を設定するとともに、その推進を図るため、「地球環境」等の5つの分野において施策の体系を定めている。

2 国における環境基本計画

【環境省「第六次環境基本計画」（計画期間：R6～R10）】

※ 策定後5年程度が経過した時点を目途に、計画内容の見直しを行うこととしている。

■課題認識から導出された計画の主な変更点

直面する環境の危機	経済・社会面の振り返り
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の活動は環境収容力を超過した結果、気候変動、生物多様性の損失、汚染の「3つの危機」に直面 ・ 経済社会システムを脱炭素・循環型・ネイチャーポジティブなものに転換することが必要（文明の転換：社会変革） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少と少子高齢化、東京一極集中と地方の疲弊 ・ 経済の長期停滞 ・ 食料、エネルギー、資源など環境は今や安全保障上の課題

環境・社会・経済すべてにおいて「勝負の2030年」

	第五次環境基本計画	第六次環境基本計画
ビジョン 「循環共生型社会」	環境・経済・社会の統合的向上を目指す持続可能な「 <u>循環共生型社会</u> 」（環境・生命文明社会）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「<u>ウェルビーイング／高い生活の質</u>」の実現 ・ <u>環境負荷の総量削減と良好な環境の創出</u> ・ 地下資源依存から<u>地上資源基調の経済社会システムへの転換</u>
環境政策の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>経済社会システム、ライフスタイル、技術のあらゆる観点からイノベーションを創出することによる「新たな成長」</u>の概念を提唱 ・ <u>経済・社会的課題の同時解決</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市場的価値と非市場的価値を引き上げる「新たな成長」</u>を示す ・ <u>基盤である自然資本とそれを支える資本・システムへの大投資</u>、「環境価値」を活用した<u>経済全体の高付加価値化</u>
環境政策の展開の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互に関連し合う、<u>横断的・重点的な枠組</u>を戦略的に設定 ・ 「<u>持続可能な開発目標</u>」（SDGs）の考え方の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>科学に基づく取組のスピードとスケールの確保</u> ・ ネットゼロ・循環経済・ネイチャーポジティブ等の<u>統合・シナジー</u> ・ <u>政府、市場、国民の共進化</u> ・ 世界の<u>バリューチェーン全体</u>での環境負荷低減

3 栃木県における環境基本計画

県においては、現在、「栃木県環境基本計画（R3～R7）」の改定にあたり、国の環境基本計画と整合を図りつつ、現状・課題を踏まえた検討が進められており、5年計画として、令和7年度に策定予定である。
 ※策定：R7 計画期間：R8～R12

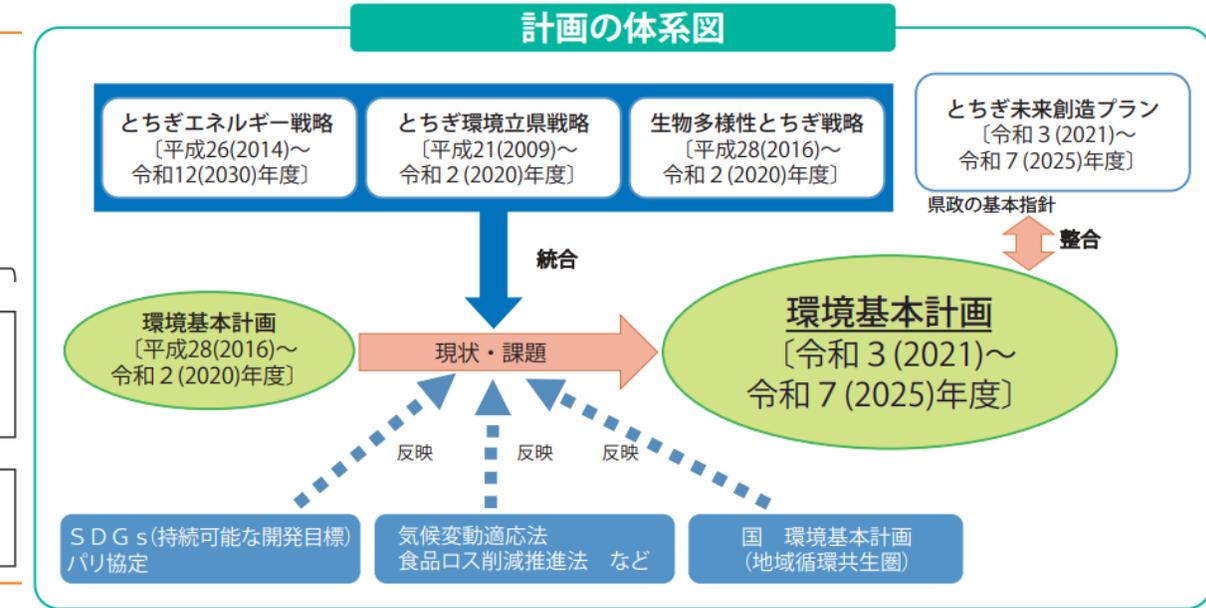
1 将来像〔令和12(2030)年度における本県のイメージ〕
 ～環境の保全と利活用により、持続的な地域活性化につなげていく～
「守り・育て・活かす、環境立県とちぎ」



重点プロジェクト

1. 2050年カーボンニュートラル実現プロジェクト
 「(仮称) 2050年カーボンニュートラル実現ロードマップ」を策定し、経済と環境の好循環によるグリーン社会の実現を目指す
 指標：温室効果ガス排出削減率
 再エネ電力自給率

2. 自立・分散型エネルギー導入プロジェクト
 再生可能エネルギー等の地産地消費を図り、「とちぎエネルギー戦略」に掲げる災害に強い地域づくりを目指す
 指標：電力自給率



3. 資源循環推進プロジェクト
 食品ロス削減やプラスチックごみ対策による資源の好循環を目指す
 指標：県民1人1日当たりの生活系一般廃棄物の排出量

4. 自然共生社会構築プロジェクト
 野生鳥獣の適正な管理等により、「生物多様性とちぎ戦略」に掲げる豊かな自然との共生を目指す
 指標：野生獣による林業被害額

4 計画策定の手順

(1) 現状・課題の整理

- ・ 現行計画の進捗状況の把握・評価 ←今回の報告箇所
- ・ 国・県の動向等を踏まえた、環境の保全及び創造に関する長期的な目標と施策の方向性の確認
- ・ アンケート調査の結果や各種統計データに基づく、本市の現状把握と課題抽出・整理

(2) 計画の目標や推進方針，施策体系の設定

- ・ 本市の現状や課題，国・県の動向等を踏まえた本市の目指すべき環境の保全及び創造に関する計画の目標や推進方針等の設定

(3) 施策・事業の検討・導出

- ・ 本市の課題解決に向けて重点的に取り組む施策・事業の導出
- ・ 国，県の計画等を踏まえた環境の保全及び創造に関する施策・事業の導出

【策定のポイント】

環境都市うつのみやの実現に向けた目標である「環境への負荷の低減」，「資源を循環できる社会への転換」，「人と自然の共生」に加え，国の環境基本計画に掲げられた「生活の質，幸福度，ウェルビーイング」等の新たな視点や，社会情勢の変化を踏まえながら検討

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

(1) 評価方法について

分野別の基本施策の達成状況について、「第6次宇都宮市総合計画」の評価方法に準じて、評価を実施するもの

【基本施策の総合評価方法】

評価 \ 項目	A	B	C
①施策指標	100%以上	70%以上100%未満	70%未満
②構成事業	「計画以上」が2つ以上	「計画どおり」が4つ以上	「計画より遅れ」が2つ以上
※構成事業が3つ以下の場合	「計画以上」が1つ以上	「計画どおり」が構成事業数と同数	「計画より遅れ」が1つ以上
総合評価 (①+②)	上記①・②の合計により判定		
	順調	概ね順調	やや遅れ
	A または B が 1 つ以上	B が 2 つ または A と C が 1 つずつ	C が 2 つ または B と C が 1 つずつ

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

(2) 分野別の基本施策の評価

5つの分野（地球環境、廃棄物、自然環境、生活環境、人づくり）において、基本施策の評価のうち約9割は「順調」または「概ね順調」であり、第3次環境基本計画全体としては、概ね計画通りに進捗していると評価できる。

【各分野の基本施策の評価】

分野	順調	概ね順調	やや遅れ
地球環境	3	4	1
廃棄物	4	2	0
自然環境	1	4	2
生活環境	3	4	1
人づくり	1	4	1
合計	12	18	5

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

【分野1 地球環境の評価】（基本施策数8：順調3，概ね順調4，やや遅れ1）

基本施策 施策指標	R6実績	R6目標値	施策指標評価	構成事業評価	総合評価	施策の評価
1-1-1：家庭における低炭素化の促進 指標：市民1人当たりの温室効果ガス排出量	3.15t-CO2 (R4)	2.75t-CO2 (R5)	B (92%)	B (計画どおり)	概ね順調	近年の猛暑等による電力消費量の増加のほか、単身世帯や核家族世帯の増加しているが、家庭向け脱炭素化促進補助事業などに取り組んだことから、概ね順調となった。
1-1-2：事業所における低炭素化の促進 指標：事業者の温室効果ガス排出量	213.8万t-CO2 (R4)	196.4万t-CO2 (R5)	B (94%)	B (計画どおり)	概ね順調	省エネ設備や高効率機器の導入などの取組が推進され、電力消費量が減少していることから、概ね順調となった。
1-1-3：市役所における低炭素化の促進 指標：市有施設における温室効果ガス排出量	74,977t-CO2 (R5)	78,896t-CO2	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	エネルギー使用量の削減とともに、再生可能エネルギーの創出・使用等の促進に取り組んだことから、順調となった。
1-2-1：創エネルギー・蓄エネルギーの普及促進 指標：太陽光発電設備導入世帯数	23,288世帯 (暫定)	22,993世帯	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	太陽光発電に対する補助事業等について積極的な周知を行い、太陽光発電設備導入の促進に取り組んだことから、順調となった。
1-2-2：地域のポテンシャルを生かした新たなエネルギーの活用 指標：冷熱エネルギーを活用した事業への参入者数	7事業者	9事業者	B (77%)	B (計画どおり)	概ね順調	民間事業者が行う冷熱利用機器の導入支援やガイドラインを活用した周知に取り組んだことから、概ね順調となった。
1-3-1：環境負荷の少ない都市整備 指標：地域新電力による温室効果ガス削減量	13,901t-CO2	6,123t-CO2	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	宇都宮ライトパワー(株)と連携を図りながら、市有施設の新電力への電力切替を推進に取り組んだことから、順調となった。
1-3-2：エコで便利な交通体系の構築 指標：公共交通夜間人口カバー率	93.5%	96.6%	B (97%)	B (計画どおり)	概ね順調	地域内交通の導入地区の拡大に取り組んだことから、概ね順調となった。
1-3-3：気候変動への適応策の推進 指標：適応をテーマとした出前講座等の数	4回	8回	C (50%)	B (計画どおり)	やや遅れ	当該テーマに関する講座希望が基準に満たなかったことから、目標値を下回る結果となった。

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

【分野2 廃棄物の評価】（基本施策6：順調4，概ね順調2，やや遅れ0）

基本施策 施策指標	R6実績	R6目標値	施策指標評価	構成事業評価	総合評価	施策の評価
2-1-1：普及啓発の推進 指標：ごみ分別アプリ「さんあ〜る」のダウンロード数	64,189件	46,911件	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	分別講習会や市ホームページ，広報紙等の様々な機会や媒体を活用した周知啓発を実施したことから，順調となった。
2-1-2：発生抑制・再使用の促進 指標：市が実施したフードドライブの参加者数	855人	354人	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	分別講習会やイベントなどの様々な機会を活用した周知啓発により，個人・企業の活動が増加したことから，順調となった。
2-2-1：資源循環利用の推進 指標：市が主体となって取り組む廃棄物系バイオマスの資源化量	1,193t	1,336t	B (89%)	B (計画どおり)	概ね順調	剪定枝の資源化や小中学校の給食残渣の資源化に取り組んだことから，概ね順調となった。
2-2-2：各主体による資源化の促進 指標：市民から依頼のあった分別講習会と出前講座の開催件数	54回	70回	B (77%)	B (計画どおり)	概ね順調	ホームページや広報紙などによる講習会等の周知やリサイクル推進員を通じた開催機会の拡充に取り組んだ結果，概ね順調となった。
2-3-1：適正な収集・処分体制の推進 指標：行政収集等実施率	100%	100%	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	行政収集及び工場への搬入予定日に対し，予定どおり，安定的かつ適正に行政収集及び受入を行うことができたことから，順調となった。
2-3-2：不法投棄の未然防止・拡大防止 指標：不法投棄の事案の解決率	98.8%	98.0%	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	不法投棄の早期発見・早期対応に取り組んだことことから，順調となった。

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

【分野3 自然環境の評価】（基本施策7：順調1，概ね順調4，やや遅れ2）

基本施策 施策指標	R6実績	R6目標値	施策指標評価	構成事業評価	総合評価	施策の評価
3-1-1：生物多様性保全に関する意識の醸成 指標：「生物多様性」の言葉の意味を知っている市民の割合	37.6%	66.7%	C (56%)	B (計画どおり)	やや遅れ	広報紙，パネル展等の様々な広報媒体を活用した情報発信や，環境学習センターと連携した自然観察会等の実施により周知啓発を行ったものの，目標値を下回る結果となった。
3-1-2：生きものとその生息・生育環境の保全の推進 指標：外来種の影響に関する認知度	87.1%	85.0%	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	各種媒体・機会を活用した周知啓発等に取り組んだことから，順調となった。
3-2-1：農地等の多面的機能の維持向上 指標：市内農地における環境保全活動カバー率	39.6%	73.2%	C (54%)	B (計画どおり)	やや遅れ	多面的機能支払交付金制度に取り組んでいる地域は良好な農村環境の保全を実現しているものの，カバー率は横ばいであることから，目標値を下回る結果となった。
3-2-2：都市の緑の保全と創出 指標：緑地保全・緑化推進に係る活動個所数	332箇所	352箇所	B (94%)	B (計画どおり)	概ね順調	活動実施箇所数の増加に向けた支援や，民有地による緑地保全や市民協働による緑空間の保全創出を行ったことから，概ね順調となった。
3-2-3：水資源の確保 指標：雨水貯留施設等設置費補助件数	1,655件	1,816件	B (91%)	B (計画どおり)	概ね順調	民有地への雨水貯留・浸透施設の設置が促進されるよう周知活動等に取り組んだことから，概ね順調となった。
3-2-4：河川環境の保全と創出 指標：河川の整備率	65.5%	65.9%	B (99%)	B (計画どおり)	概ね順調	「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」に掲げている溢水・浸水被害の軽減に向け，計画的な河川整備に取り組んだことから，概ね順調となった。
3-2-5：良好な景観の保全と創出 指標：景観形成重点地区等の指定数	9地区	11地区	B (82%)	B (計画どおり)	概ね順調	各地区における景観形成の検討や，地元住民や事業者などと意見交換を行い，地区指定に向けた合意形成のための理解促進に取り組んだことから，概ね順調となった。

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

【分野4 生活環境の評価】（基本施策8：順調3，概ね順調4，やや遅れ1）

基本施策 施策指標	R6実績	R6目標値	施策指標評価	構成事業評価	総合評価	施策の評価
4-1-1：大気汚染状況の監視 指標：光化学オキシダントの環境基準達成率	93.4%	98.8%	B (94%)	B (計画どおり)	概ね順調	大気汚染防止法に基づき、市域における大気中の光化学オキシダント等の大気汚染物質の常時監視を適切に実施したことから、概ね順調となった。
4-1-2：水質汚濁状況の監視 指標：河川水の生物化学的酸素要求量に係る基準達成率	72.2%	99.1%	B (72%)	B (計画どおり)	概ね順調	水質汚濁防止法等に基づき、市域における河川・地下水の水質調査を適切に実施したことから、概ね順調となった。
4-1-3：騒音振動の調査 指標：自動車騒音に係る環境基準達成率	96.5%	100%	B (97%)	B (計画どおり)	概ね順調	法令等に基づき、関係機関と調整を図りながら騒音・振動の状況を適切に把握したことから、概ね順調となった。
4-1-4：放射線や化学物質の調査 指標：ダイオキシン類の環境基準達成率	100%	100%	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	ダイオキシン類等の状況を適切に把握し、生活環境が良好に保全されたことから、順調となった。
4-2-1：工場・事業場の監視・指導 指標：工場・事業場における排出基準超過件数	2件	1件	C (50%)	B (計画どおり)	やや遅れ	事業場への立入検査や、過去に排出基準を超過した工場等については、立入検査頻度を増やすなど、監視・指導を重点的に行い、減少傾向にあるが、目標値を下回る結果となった。
4-2-2：事業者等への意識啓発 指標：良好な生活環境の確保に係る市民満足度	54.1%	39.0%	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	環境配慮行動やSDGsへの貢献等、環境協定締結の意義を解説したリーフレットを配布するなど、様々な広報を行ったことから、順調となった。
4-2-3：自動車排出ガス対策の充実 指標：電気自動車補助件数	491件	418件	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	BEVの新規発売開始や、電気自動車の利点等の周知啓発を行ったことから、順調となった。
4-3-3：生活排水対策の充実 指標：生活排水処理人口普及率	99.4%	99.9%	B (99%)	B (計画どおり)	概ね順調	関係課と連携を図りながら公共下水道の整備を推進したことから、概ね順調となった。

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

【分野5 人づくりの評価】（基本施策6：順調1，概ね順調4，やや遅れ1）

基本施策 施策指標	R6実績	R6目標値	施策指標評価	構成事業評価	総合評価	施策の評価
5-1-1：市民総ぐるみによるもったいない運動の推進 指標：もったいない運動の認知度	51.7%	58.2%	B (76%)	B (計画どおり)	概ね順調	「もったいない」の意識啓発や行動変容を促す実践促進につなげるため、ワークショップなどの参加型・体験型のブースを中心にイベントを開催し、効果的な普及啓発を行ったことから、概ね順調となった。
5-1-2：もったいない運動を取り入れたイベントの開催 指標：もったいない運動を取り入れたイベントの割合	100%	100%	A (100%以上)	B (計画どおり)	順調	エコイベント手順書に基づき、来場者に対し、ごみの分別や公共交通の利用を呼びかけるなど「もったいない運動」の実践促進を図ったことから、順調となった。
5-2-1：環境学習の場と機会の提供 指標：環境学習センター開催講座の平均満足度	82.8%	97.2%	B (85%)	B (計画どおり)	概ね順調	各種講座の満足度は上昇傾向にあり、ニーズを踏まえた各種講座を実施したことから、概ね順調となった。
5-2-2：地域における環境保全活動を担う人材の育成 指標：環境出前講座開催数	62回	45回	B (77%)	B (計画どおり)	概ね順調	市民一人ひとりの環境への関心を高め環境配慮行動実践を更に促せるよう内容の充実や幅広い世代を対象に普及啓発に取り組んだことから、概ね順調となった。
5-3-1：各主体による環境配慮行動の推進 指標：もったいない運動の実践率	27.7%	55.3%	C (50%)	B (計画どおり)	やや遅れ	「もったいない」の意識啓発や行動変容を促すためのイベント開催や、市内各所での巡回展の実施などにより、もったいない運動の周知や実践促進を推進したが、目標値を下回る結果となった。
5-3-2：多様な活動主体間の連携促進 指標：環境学習センターの利用件数	823件	890件	B (92%)	B (計画どおり)	概ね順調	本市全小学4年生を対象とした「施設見学」の実施や、利用者の関心が高い講座の開催など、センター利用の促進に努めたことから、概ね順調となった。

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

【総合評価：「やや遅れ」となった施策の状況について】

施策指標がC評価となっているものの、構成事業のほとんどが「計画通り（B評価）」となっているため、基本施策としては概ね計画通り進捗しているものと考えられる。

基本施策 施策指標	施策指標の 評価	基本事業	構成事業	構成事業の 進捗
1-3-3：気候変動への適応策の推進 指標：適応をテーマとした出前講座等の数	C (50%)	気候変動に関する普及啓発	気候変動に関する理解と適応策の実践に向けた情報発信	計画通り
		気候変動への適応策の推進	局地的な集中豪雨等への対応	計画通り
			熱中症対策の推進	計画通り
			農業における気候変動による影響への対応	計画通り
3-1-1：生物多様性保全に関する意識の醸成 指標：「生物多様性」の言葉の意味を知っている市民の割合	C (56%)	自然に親しむきっかけづくり	人と生きものつながりに関する周知啓発	計画通り
			自然観察会等の実施	計画通り
		学ぶ場の創出	出前講座の実施	計画通り
			生物多様性に配慮した事業活動へ向けた情報発信	計画通り
			環境学習センターと連携した環境学習機会の提供	計画通り
			学校における意識の醸成	計画通り
		活動へつなげる支援	環境リーダー等の人材育成	計画通り
			「こどもエコクラブ」の育成	計画通り
うつのみや生きものつながり活性化事業の推進	計画より遅れ			

5 現行計画（第3次宇都宮市環境基本計画）の進捗状況

【総合評価：「やや遅れ」の評価について】

基本施策 施策指標	施策指標評価	基本事業	構成事業	事業の進捗
3-2-1：農地等の多面的機能の維持向上 指標：市内農地における環境保全活動カバー率	C (54%)	農地や里山・樹林地の保全と活用	優良農地の確保・保全	計画通り
			森林施業の推進	計画通り
			農地・農業用水等の保全の推進	計画通り
			遊休農地等の有効利用の促進	計画通り
			地域特性を活用したエコツーリズム等の検討・実施	計画通り
		環境にやさしい農林業の促進	農村の自然環境・景観の保全	計画通り
			環境にやさしい営農活動の普及促進	計画通り
			地産地消の推進	計画通り
4-2-1：工場・事業場の監視・指導 指標：工場・事業場における排出基準超過件数	C (50%)	ばい煙・排出水・騒音等に関する監視・指導	ばい煙・排出水・騒音等に関する監視・指導	計画通り
		アスベスト飛散防止対策の推進	アスベスト飛散防止対策の推進	計画通り
		土壌汚染に関する監視・指導	土壌汚染に関する監視・指導	計画通り
		公害苦情等に係る相談対応の実施	公害苦情等に係る相談対応の実施	計画通り
5-3-1：各主体による環境配慮行動の推進 指標：もったいない運動の認知度	C (50%)	家庭におけるエコライフの推進	環境配慮行動の実践促進	計画通り
			マイMy（マイバッグ、マイ箸）運動の推進	計画通り
		事業所の環境配慮行動の推進	ECOうつのみや21認定制度の推進	計画通り
		学校等における環境配慮行動の推進	みやエコスクール認定制度等の推進	計画通り
		市の率先した「もったいない運動」の推進	市の事務事業における「もったいない運動」の推進	計画通り
			グリーン調達推進方針に基づくグリーン購入の推進	計画通り

6 策定スケジュール

計画策定における環境審議会のスケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
スケジュール		◆ 環境審議会①	アンケート調査 現状・課題の整理		◆ 環境審議会②	骨子案の作成		◆ 環境審議会③	素案の作成		◆ 環境審議会④	パブリック コメントの実施	◆ 環境審議会⑤	計画策定・公表

【環境審議会の開催時期及び検討内容】 ※第2次うつのみや生きものつながりプランも同様に付議

- ・ 環境審議会①（6月2日）： 諮問，計画策定について（国・県の動向，現行計画の進捗評価）
- ・ 環境審議会②（8月下旬）： 現状・課題の整理（アンケート集計，現状把握と課題抽出）
- ・ 環境審議会③（10月下旬）： 骨子案（目標，推進方針，施策体系の設定）
- ・ 環境審議会④（12月下旬）： 素案
- ・ 環境審議会⑤（2月中旬）： パブリックコメントへの対応，答申

(参考) アンケート調査の概要

1 目的

新たな環境問題に対する市民・事業者意識についての的確に捉えつつ、過去の調査と比較をしながら課題を明らかにし、次期計画における施策立案等に向けた基礎資料とするもの

2 実施方法

前回改定時（R 2 年度）における調査と同程度の回収率を確保するため、前回の実施方法を踏襲することを基本としながらも、回収率をより向上するため、他の意識調査にならない、インターネットでの回答方法を追加する。

3 アンケートの設問数

第 4 次宇都宮市環境基本計画及びうつのみや生きものつながりプランの意識調査を併せて実施する。

【設問予定数】

市民 : 約 3 5 問 (前回 2 1 問)

事業者 : 約 1 5 問 (前回 2 1 問)

※ R 6 年度に「一般廃棄物処理実施計画」において同様の設問数でアンケートを実施しており、40%以上の回答率を確保（市民：3 7 問（52.6%）、事業者：1 7 問（42.2%））

(参考) アンケート調査の概要

	市民アンケート	事業者アンケート
対象	・住民基本台帳登録者 約1,300人 ※性別・年齢・居住地区を考慮した無作為抽出	・大規模・中小企業事業者 約1,300事業者 ※商用データベース等から無作為抽出
調査方法	QRコード付き調査票を郵送し、郵送またはインターネットでの回答が可能なものとする	
回収期間	3週間程度（6～7月を想定）	
送付資料	依頼文及び調査票	
前回の回収率	48.2%	40.7%
調査項目 (イメージ) ※具体的な項目は委託業務において今後調整	<ul style="list-style-type: none"> ①属性 ②身近な環境の満足度 ③環境に配慮した実践行動 ④環境への取り組みの認知・理解度, 必要性 (太陽光発電設備の導入, みやエコアクションポイントなど) ⑤実施予定の取組, 課題 ⑥生物多様性の満足度 ⑦自由記述 	<ul style="list-style-type: none"> ①属性 ②身近な環境の満足度 ③環境に配慮した実践行動 ④環境への取り組みの認知・理解度, 必要性 (太陽光発電設備の導入 (P P A方式), 脱炭素経営 (S B T認定) など) ⑤実施予定の取組, 課題 ⑥自由記述

※下線は経年比較の項目

第2次うつのみや生きものつながりプランの 策定について

【趣旨】

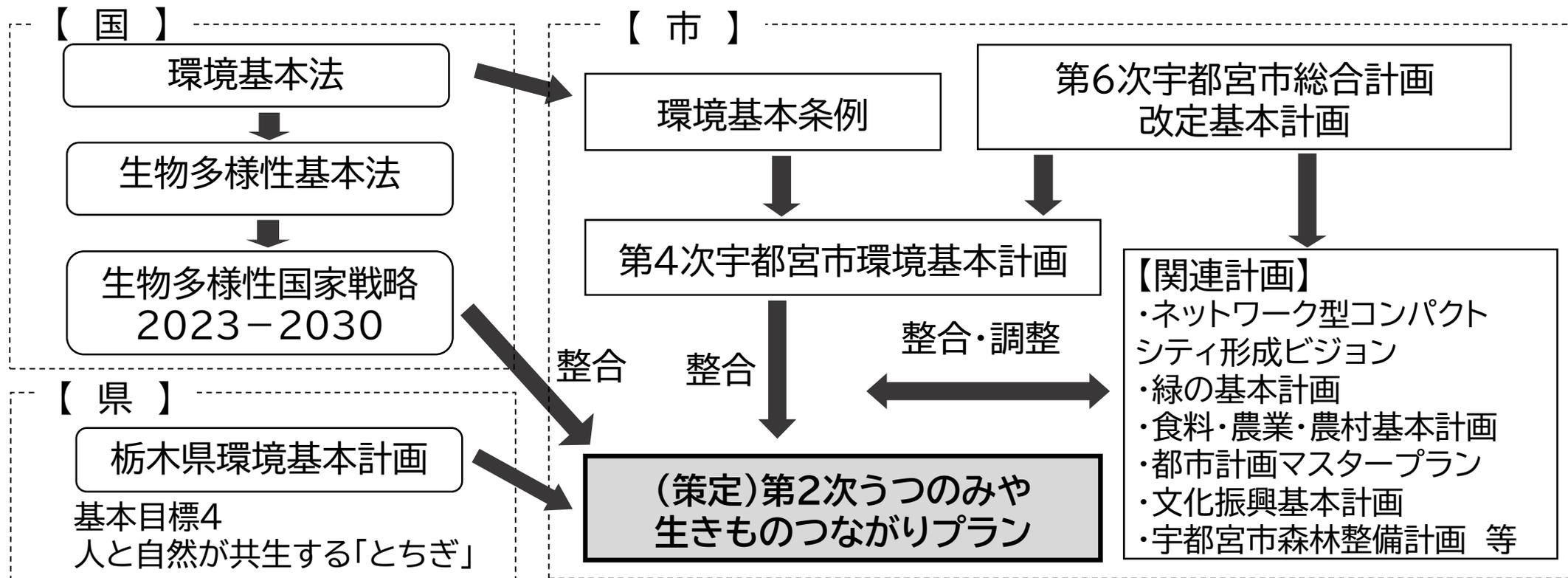
「うつのみや生きものつながりプラン（宇都宮市生物多様性地域計画）」が計画期間を満了することから、第2次プランの策定に当たり、策定スケジュール等について報告するもの

1 策定の目的

- ・ 本市においては、平成28年3月に宇都宮市生物多様性地域計画である「うつのみや生きものつながりプラン（前期：平成28～令和2年度 後期：令和3～7年度）」（以下「現行プラン」という。）を策定し、各種施策事業を実施してきた。
- ・ このような中、国は、「生物多様性損失と気候危機への統合的対応」や「社会の根本的変革」などの世界的潮流を踏まえ、「2030年のネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」を掲げた「生物多様性国家戦略2023－2030」を令和5年3月に策定したことから、当該国家戦略を踏まえた施策の実施が求められている。
- ・ 今後も、総合的に本市の生物多様性保全の取組を推進するためには、外来種の移入や気候変動などの本市を取り巻く自然環境の現況・経年変化やSDGsをはじめとした社会潮流、国の施策の動向などを踏まえた対応が必要であることから、新たに「第2次生きものつながりプラン」を策定するものである。

2 プランの位置づけ

- ・ 生物多様性基本法第13条に基づく計画
- ・ 「第6次宇都宮市総合計画改定基本計画」の政策を構成する施策「自然との共生の推進」を実現するための計画
- ・ 「宇都宮市環境基本計画」のうち、生物多様性保全に資する取組を分野横断的にまとめた個別計画



3 計画期間

- ・ 現行プラン : 平成28年度～令和7年度までの10年間
- ・ 第2次プラン: 令和8年度～令和12(2030)年度までの5年間
※上位計画である「第4次宇都宮市環境基本計画」の計画期間: 令和8～12年度

4 検討内容

検討のポイント

現行プランの評価や、「令和5・6年度宇都宮市自然環境基礎調査」等により把握した本市の自然環境の変化, SDGsをはじめとした社会潮流, 生物多様性国家戦略が掲げる「2030年のネイチャーポジティブ(自然再興)の実現」の視点等を踏まえながら検討

- ・ 多様な主体が連携して取り組むための生物多様性保全施策の基本方針の検討
- ・ 指標・目標値の検討, 施策体系の構築
- ・ 「2030年のネイチャーポジティブ(自然再興)の実現」に資する生物多様性保全策の検討
- ・ 本市の地域特性を踏まえた, 生きものの生息・生育環境の保全策の検討
- ・ 効果的な外来種対策や, 生物多様性保全における気候変動への緩和・適応策の検討
- ・ 生物多様性に係る更なる意識の醸成に関する施策の検討

5 策定スケジュール

- ・ 第4次宇都宮市環境基本計画と同様(資料1 19頁参照)